

よく聞かれる質問

1. INSAFの目的・基本理念・成果

1.1 INSAF設立の経緯

1999年9月30日のJCO事故が与えた世界への影響を鑑みて、世界の核燃料加工事業者が集まって安全ネットを設立する機運が高まりました。この流れを受けて、1999年12月6日に核燃料加工に関連する11社・団体が東京でINSAFの設立準備会合を開催しました。核燃料サイクルに関係する事業者・団体として、安全性向上に協力して取り組むとする設立準備会合の声明を受けて、2000年4月27日にINSAFは8社・団体で設立されました。

1.2 「世界の関係者により共有される共通の安全文化を確立する」とあるが、具体的には何を目的として何を行うのか

INSAFは、世界の核燃料サイクル産業に係わる事業者が相互に安全についての情報交換・発信を行なう場をインターネット上に提供するもので、世界の核燃料サイクル事業者の安全文化向上とその結果としての安全確保の向上に寄与しようとするものです。

1.3 インターネットで安全情報を交換することで、安全文化の確立が図れるのかまた安全文化とは何か

安全文化とは、安全性を最優先課題とする風土・慣習であり、企業で言えば現場の作業員から経営層に至るまで全ての階層に安全最優先の高い意識が醸成されていることであると考えます。海外を含むメンバー企業間で、安全についての情報を日常的に交換することは、相互の安全内容を確認することを通じ、安全意識の向上に役立つものと考えています。

1.4 INSAFは、JCOのような事故の再発防止にどのように役立つのか

JCO事故は、組織エラーと呼ばれる、一種のヒューマンエラーが原因ではないかと言われています。このような事故を予防する上で、安全文化の向上は重要と考えます。

2. 組織・運営

2.1 将来、参画を呼びかける事業者の範囲にMOX加工も含まれるのか

当面ウラン燃料加工事業者を中心にINSAFを設立しましたが、将来はMOXを含む燃料サイクル事業全体を視野に入れていきたいと考えています。

2.2 事務局

個々のメンバーがボランティアで、かつ平等にINSAFに貢献する（個々の情報を提供する）ことから、現在のところ事務局は置いていません。ただし、今後の活動の状況によっては事務局を置くことになることも考えられます。

2.3 会長、代表者

個々のメンバーは対等であり、会長や代表者は置きません。

2.4 任意団体なのか。将来法人化するのか

任意団体で法人化は考えていません。

2.5 競争している同業社間で協調できるのか

また実効的な情報の共有化が図れるのか

活動内容を安全に関する情報交換と限定しており、例えば生産技術や設備等、個々の企業の商業機密に触れるような情報は対象外としています。従って、ビジネスで競争していても、INSAFでは協調できるし、複数業者が情報交換しても独禁法に触れる恐れもありません。

3. 活動内容

3.1 具体的な活動内容

A 安全についての情報交換・発信は、原則ホームページにより行います。交換する情報の内容は、安全に関するもの、事故・トラブル等に関連するもの、社会的受容性に関するもの等を考えておりますが、具体的内容は運営委員会で議論を進めています。

3.2 情報交換・共有化の成果を安全向上にどうやって生かしていくのか

安全情報を交換・共有化することは、個々の会員に安全システムを比較・検討する材料を与えることとなります。また、他の会員と安全の情報交換を日常的に行うことで、安全についての意識を常に刺激し、安全に対する感覚を鋭敏にすることができます。このように、技術面と意識面の双方向から安全を向上させることができると考えています。

4. 同種の他の安全ネットとの関連

4.1 NSネットとの関連

日本原子力技術協会のNSネットとINSAFは、いずれも原子力産業に携わる事業者

等の安全文化の向上に努めることを目的としていますが、行なう事業、参加メンバー等に違いがあります。事業に関しては、NSネットは、「原子力安全文化の普及」、「会員間の相互評価」、「原子力安全文化醸成に関する情報発信」と幅広い事業展開を行なっていますが、INSAFは「原子力安全に関する情報交換・発信」だけを行ないます。また、参加メンバーに関しては、NSネットは国内の電力事業者とその関連事業者、燃料加工事業者、プラントメーカー、研究機関のように、原子力産業の幅広い分野の事業者及び研究機関が参加しています。一方、INSAFは燃料サイクルかつ当面は核燃料加工事業者と研究機関だけの参加ですが、国内だけでなく海外からも参加しているところに特徴があります。

4.2 WANOとの関連

WANOは、発電用原子炉について運転している世界中の事業者（電力会社）が集まって造った組織であり、当然原子力発電所の安全を対象にしています。INSAFは核燃料サイクル事業の安全性向上を目的とした組織です。INSAFの方は、参加を表明している事業者が、まだ全体のごく一部に過ぎませんが、INSAFの活動が発展すれば、WANOと併せて世界の原子力事業の全域をカバーしうるしくみが出てくることになります。